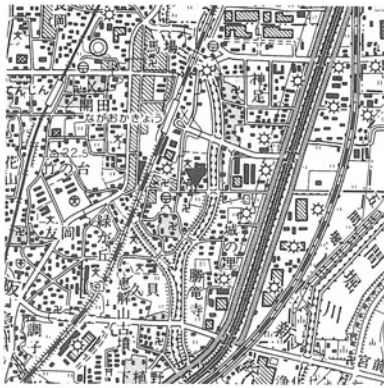


京都・中世勝龍寺城跡

- 1 所在地 京都府長岡京市東神足二丁目
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)五月～八月
- 3 発掘機関 長岡京市教育委員会・財長岡京市埋蔵文化財セン
- 4 調査担当者 岩崎 誠
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 室町時代(一五七一年～一五八六年)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

勝龍寺城は、小畑川と大川の合流点付近に位置する中世後期の平城である。築城については、暦応二年(一三三九)に細川頼春・師氏によるとする説と、長祿元年(一四五七)に畠山義就が乙訓郡役所として造営したとする説がある。戦国時代末期には松永久秀と三好三人衆の属城となっていたが、織田信

長がこれを攻略し、永祿三年(一五六〇)には細川藤孝に下される。細川藤孝は元龜二年(一五七一)に城を再整備するが、天正九年(一五八一)に藤孝は宮津城に移り、翌年の山崎の戦いにおいて、明智光秀軍の拠点となり、落城した。

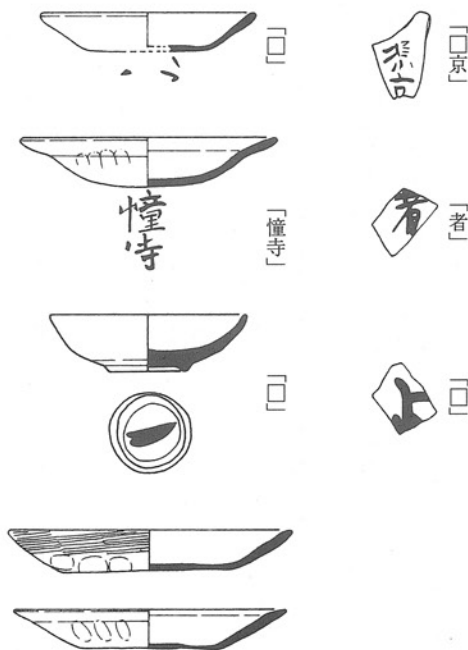
今回の調査地はJR長岡京駅の南東約四〇〇mに位置し、長岡京跡右京第一六三次調査として実施したものである。木簡は、勝龍寺城東辺外堀SD一六三〇五のC期堆積層から、「懂侍」「者」などの墨書土師器皿とともに出土した。東辺外堀SD一六三〇五の規模は、最大幅約五m深さ二mで、断面逆台形を呈する。土師器の特徴から、一六世紀後半期と考えられ、細川藤孝が大改修した時期前後の遺物と思われる。

8 木簡の釈文・内容

(1) [カーン] [大般若]
奉転読 □ □ ×

(272) × (42) × 3 081

大般若経転読札の断片である。上端を山形に尖らせた形態で、ヒノキの板目材を用いている。墨書面は片面のみで、平坦に加工しており、裏面は板割り時の木目に沿った凹凸が残る。左側面は欠損しており、欠損部の一部に焼け焦げと思われる黒色炭化が見られる。木簡の出土位置は勝龍寺城の北東隅にあたる。また、出土地点から約二五m北に西接する土塁には、六世紀末の古墳が封じ込められ



東辺外堀出土土器

ており、今回の木簡の出土位置は、その用途を考える上で興味深い。
関係文献

長岡京市教育委員会『長岡京市文化財調査報告』一五（一九八五年）
同『長岡京市文化財調査報告』一七（一九八六年）

（岩崎 誠）

木簡研究 第二五号

巻頭言—木簡を観る—

二〇〇二年出土の木簡

平川 南

概要 平城宮跡 平城京跡右京二条三坊三坪 西大寺旧境内 興福寺
一乗院跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊 藤原京跡右京一条一坊
藤原京跡右京六・七条四坊 飛鳥京跡苑池遺構 酒船石遺跡 坂田寺
跡 長岡京跡 平安京跡右京三条一坊六町 東寺（教王護国寺）旧境
内 中之島六丁目所在遺跡 長原遺跡 西ノ辻遺跡 鬼虎川遺跡 中
野遺跡 讀良郡条里遺跡 三原石田遺跡 中林・中道遺跡 貞養院遺
跡 上橋下遺跡 中村遺跡 箱根田遺跡 五合榎遺跡（仏法寺跡）
下宅部遺跡 騎西城跡 騎西城武家屋敷跡 大慈恩寺遺跡 羽黒遺跡
野路岡田遺跡 西河原遺跡 西河原宮ノ内遺跡 三堂遺跡 弥勒寺西
遺跡 松本城下町跡中町 薬師遺跡 佐野城（春日岡城）跡 泉慶寺
跡 仙台城跡（二の丸北方武家屋敷地区） 大古町遺跡 市川橋遺跡
志羅山遺跡 中尊寺境内大池跡 藩校明德館跡 新城平岡（四）遺跡
石盛遺跡 畝田・寺中遺跡 中屋サワ遺跡 南新保北遺跡 下沖北遺
跡 浦廻遺跡 草野遺跡 屋敷遺跡 青木遺跡 黄幡一号遺跡 延行
条里遺跡 浜ノ町遺跡 新蔵町三丁目遺跡 常三島遺跡 守護町勝瑞
遺跡 南江戸蘭目遺跡 別府遺跡 朽網南塚遺跡 下月隈C遺跡群
高畑遺跡 元岡・桑原遺跡群
一九七七年以前出土の木簡（二五） 坂田寺跡
釈文の訂正と追加（六）
志賀公園遺跡（第二四号） 元岡・桑原遺跡群（第三号）
中世木札文書研究の現状と課題
長登銅山遺跡出土の銅付札木簡に関する一試論
古代荷札木簡の平面形態に関する考察
書評 富谷至編『辺境出土木簡の研究』
衆報

頒価 五〇〇〇円 送料六〇〇円